



進行（我妻建治氏）

それでは、早速シンポジウムを開催させていただきます。

まず、これまで3回、今回は4回目でございます。ある意味では21世紀最初のシンポジウムでございます。ついては、それぞれのサミット参加の首長さん方から、このサミットに関わって、これまでどのような真田を活かしたまちづくりに入っているか、そういった事例をいろいろお話いただいたり、あるいは今後どのような施策を行おうと思いいなっておられるか、そういうお話を聞かせていただきたいと思います。

ただし、ご発言の時間でございますけれども、13市町村の皆さんたっぷり時間かかりますと日が暮れますし明日になってしまいますので、できれば3分程度でご発言をいただきたい。つまり、事例報告なり施策なりをお話しいただきたいと思います。

まず、初めでございますが、私のすぐ左隣に九度山町長の奥野さんがいらっしゃいますが、奥野さんからお願いしたいと思います。



九度山町長（奥野恒太郎氏）

皆さんこんにちは。私は、今ご紹介いただきました和歌山県九度山町長の奥野恒太郎でございます。

本日は、真田氏にゆかりのある市町村が、このように一堂に会しまして開催されます「新世紀真田サミット」に参加することができまして、大変光栄に存じます。また、本日のためにご尽力いただきました白石市の皆様方に心から厚く御礼を申し上げます。

さて、九度山町について簡単に紹介させていただきますと、本町は和歌山県の北東部、弘法大師（空海）がお開きになられました真言宗の聖地・高野山の麓の町であります。お大師様のお母様をお祀りする慈尊院というお寺や真田庵などの歴史・文化遺産、また、すばらしい自然環境と温暖な気候に恵まれた静かな住みよい町であります。

本町では柿の栽培が盛んで、特に富有柿は品質日本一を誇っております。本日、物産展に出展させていただいておりますので、今時分はもう完売であろうかと思っております。売っておいりました職員がそちらの方へ来ておりますので、もう品物はないと思っております。そういうようなことで、お買い求めいただきました方につきましては、市価の5分の1で本日お譲りをいたしておりましたので、ぜひご賞味をいただきたいと思います。と存じます。

真田氏とのゆかりは、慶長5年の関ヶ原の戦いに敗れた昌幸・幸村親子が、九度山の地で閑居したことから始まります。善名称院というお寺がございまして、九度山でこの世を去りました昌幸公のお墓がございまして。現在では通称真田庵と呼ばれ、皆さんに親しまれております。

本町では、昭和11年より、毎年5月3日から5日までの3日間、真田まつりを盛大に開催しております。初日には真田庵において真田親子を偲んで厳かに法要を営み、また町民総合グラウンドでは3日間ふれあい広場を開催し、ミニSLなど子供たちが喜ぶ各種イベントを実施いたしております。しかし、何と申しましてもこの祭のメインは戦国絵巻をほうふつさせる武者行列でありまして、真田出陣太鼓に送られて鎧・兜に身を包んだ真田親子を先頭に、十勇士や鉄砲隊、槍隊、なぎなた隊などが続く勇壮なものでありまして、沿道にはたくさんのお見物客が詰めかけ大いににぎわっております。

ちなみに、数年前には真田町の町長さんにもお越しをいただきまして、馬に乗って真田幸村を演じていただきました次第であります。これから、13の市町村があるわけでありますがけれども、できれば私の町の番が回ってまいりましたときには、各市町村長さんに十勇士をやっていただきたいなということを思っております。5月5日でございますので、秋ではないので私のところの名物の柿はございませんけれども、ぜひそのようにしていただきたいなというふうに思っております。

そのほか、このサミットを通じましていろいろな市町村の取り組みを聞かせていただき、我が町でもいろいろ取り組みをいたしておりますのは、商店街を「真田のみち」と命名いたしまして、六文銭をデザインした街路灯と特産の富有柿をデザインした街路灯の設置や、電柱のシートに真田十勇士のキャラクターを巻きつけるなど、真田氏とのかかわりや歴史を体験していただけるまちづくりを行っております。

また、本町は真田氏の取り持つ縁で、長野県真田町さんと姉妹町の提携を結ばさせていただいております。スポーツ大会を初め各方面での交流を深めさせていただいております。

このように本町では真田氏が住民の生活にうまく溶け込んでおりますので、今後も引き続き歴史を感じることでできるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

皆さんも和歌山県へお越しをいただきました節には、ぜひ九度山町へもお立ち寄りいただきますよう心からお待ちいたしております。歴史では、九度山（くどさん）と呼ばれておりましたけれども、今では九度山町（くどやまちょう）と申します。ぜひお越しください。

最後になりましたが、本日サミットにご出席の各市町村様の今後ますますのご繁栄と、本日ご参加いただきました白石市の皆様方のご健康、ご健勝をお祈り申し上げ、九度山町の紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

九度山町では、真田幸村大坂への出陣行列のイベントであるとか、あるいは真田にちなむネーミングをつけた道をつくって、そこへ十勇士の名前をつけるとかいろいろまちづくりに工夫されているようでございます。柿が大変おいしいということことだそうでございます。ありがとうございました。

それでは、次に大阪市の芳田さんをお願いいたします。



大阪市集客観光課長代理（芳田 隆氏）

大阪市のゆとりとみどり振興局の集客観光課の芳田でございます。

本日は市長ちょっと来れませんので、私かわりでありまして僭越ではございますけれども、大阪市のまちづくり並びに取り組みにつきましてご説明をさせていただきたいと思っております。

現在、大阪市では国際集客都市づくりというのを進めております。国際集客都市と今一言に言いましてもどういうことかといいますと、観光だけに限らず、国際的なビジネスとかイベント、それからコンベンション、そしてあとスポーツ競技大会、そういったものを通じまして国内外から多くの人や物や情報が集まって、

新しい産業や文化を創造して活力に満ちた都市づくりをすると、一言に言えばそういうことになるんです。

従来から、大阪市内には歴史的な名所旧跡、大阪城を初めそういったものがたくさんあったんですけれども、それにあと飲食とかショッピングとかそういった都市型の観光資源というものは多数ございましたが、これに加えて新たな集客施設をいろいろつくりまして、たくさんのビジターの方に大阪に来ていただくということで、従来から海遊館ですとか大阪ドームとか、なにわの海の時空館といった新しい集客施設をつくってきております。最近ではご存じのように、ことしの3月にユニバーサル・スタジオ・ジャパンが開業いたしまして、東京ディズニーシーと集客力を競っているんですけれども、爆発的な集客力を誇っております、かなりの方に大阪に来ていただいております。先週ですけれども、11月3日なんです、これNHKの大阪放送会館と同じように建てたんですが、大阪歴史博物館という大きな建物ができまして、ここに大阪の難波宮から始まる古くからの歴史をすべて展示しようということで展示を行っております。

こうしたことによりまして、集客についてのハード整備というのは一応できたんですけれども、これからそういったものを使って、いろいろなソフト面での充実をしようということで、ことしの4月ですけれども、私の、今の名前になっております「ゆとりとみどり振興局」というちょっとユニークな名前の局をつくりまして、スポーツとか文化・観光、それから公園整備、あと緑化、そういったものを一体的に整備していこうということで取り組んでおります。幸いにしましてU・S・Jの効果もございまして、ことしの観光動向調査を行いました結果、相当の観光ビジターの方の増加を見てございまして、今後またたくさんの方に来ていただいて大阪に滞在していただくというふうを考えております。

真田氏といいますと、大阪では大阪城が切っても切れない関係にございます。大坂冬の陣、夏の陣、そして最後に真田幸村が討ち死にをするという極めてドラマティックな、先ほど出ました真田十勇士の世界がここで展開されるわけですけれども、現在その大阪城の天守閣といいますのは、昭和6年に市民の寄附によってつくられたものであります。再建されましてことしでちょうど70周年を迎えました。

そこで、今ちょうどその70周年を記念しまして「大阪城70周年記念イベント」ということで、大阪城の天守閣、そして歴史博物館、これ3日にオープンしたところですが、それと隣接してあります、もっと古くからあります難波宮の跡、その三つのエリアを活用しまして、「歩いて楽しむ大阪歴史三景」というイベントを今12月2日まで開催しております。この中で、資料の展示も行っているんです。

最後になりましたけれども、大阪の方ではこの大阪城を中心とする歴史・文化を初めとしまして、新しい集客施設を活用してたくさんの方に来ていただくと考えております。本日は、ほかの市町村の方々のご意見をいろいろ参考にさせていただきまして、新たなまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

本当に最後になりましたけれども、本日は白石市の皆さんにお世話になりました。どうもありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

大阪市ということになりますと、地域的にも広さという点でも時間的にも大変な幅があるところがございますから、それぞれの何をイベントとして持つかとか、あるいはまちづくりをするかということになると、これは日本とか世界、ワールドワイドのような形で都市づくりということがコンセプトになるわけで、真田家ゆかりというあたりとはなかなか焦点が合いそうもありませんような気がします。しかし、このサミットの成果は、それぞれにとるべきところがあればとって、活かしていただきたいというような感じを私は持っております。ありがとうございました。

次に、真田町の箱山町長にお願いします。

真田町長（箱山好猷氏）



皆さんこんにちは。「真田氏発祥の里」と言われます長野県真田町からやってまいりました箱山好猷でございます。

私ども真田町は、およそ1300年ほど昔、隣の上田市内に信濃国府が置かれたころ、この国府で使う軍馬、乗馬、荷役の馬を育てるための国の牧監が置かれたようでございまして、真田氏はこの国の牧監の経営者として営々と地位を築いていき、その後、戦国に入りまして海野平の合戦という大きな戦いがありまして、ここに幸村公から数えますと祖父に当たる真田幸隆公が活躍されたという史実が出ております。

しかし、幸村公との縁ができましたのは、実は長篠の戦で武田が負けるまでは、幸村公は父昌幸公が武田の家臣として甲府にいましたので、その後、長篠の戦で長兄の信綱、それから次兄の昌輝が戦死して三男の昌幸公が家督を継ぐために真田へ帰ってきた。これからございまして、そのとき幸村公は2歳だったと言われております。そんな関係でございまして、その後、昌幸公が上田に城を築いて上田におり、関ヶ原の合戦の後、沼田の城主であった信幸公が家督を継いで、その後、長野市の松代へ移ったので、人材も宝物も全部なくなりまして、真田町に残っているのは山城を初めとする史跡だけでございます。

そんな中で、いま一度真田氏の名前をお借りして地域の活性化を図りたいということでいろいろ考えてやらせていただいております。

まず、真田町振興公社という組織でつくります品物に、ほとんど真田十勇士等の名前をつけておりまして、地元の大豆でできる味噌が「幸村公御前味噌」であり、豆腐が「十勇士豆腐」であり、それからスナック菓子では子供の健康によくないということで豆菓子をつくっておりますが、これが我妻先生もご縁があるようでございまして、「穴山小助豆」でございまして、等々真田十勇士と一族の名前を使っております。

また、先ほど申し上げましたように残っているのは史跡だけですので、何とかこの史跡を活かす、真田本城を中心とする七つの山城が残っている規模は全国一だそうでございますので、今その山城を活かす計画で事業を進めております。森林空間整備事業という事業をやっておりますが、そんな中で山城をみんなが登り楽しめる、そしてそれをめぐるトレッキングすることを真田町の一つの観光の売りにしたいと願いまして、少なくなりましたけれども、今菅平高原へ年間120万人の方々スポーツでおいでになるわけですが、ほかに真田町全体を歩いてもらうようなことをしたいということで、今、山城整備を進めております。

さらには、最近できました町の中の橋等には真田氏の名前を使っております。役場のすぐそばに、上田市の水源でもございますが、神の川と書く神川（かんがわ）という川が流れている。ここにかかる橋が「幸村橋」でございます。そして、先日11月6日に、菅平へ通ずる深い谷に96メートルの橋がかかりました。この橋を町民公募で決めまして、高い谷にかかっているのは「猿飛橋」でございます。それからその上のところにまたヘアピンカーブがございます。これに橋をかけてもらう予定になっておりますが、これが今のところ霧もわくので「霧隠橋」と、こんなふうにつけていきたいということで、真田一族にもう一度働いてもらいたいと、こう願っているわけでございます。

群馬県境の水源のまちでございます。人口1万1,800名、小さな町でございますが、あの戦国の世を知恵と勇気で駆け抜けた真田一族、そして先ほど申し上げました真田幸隆公が一旦、海野平の戦いで負けて上州を流浪の後、武田信玄に仕えて信州先方衆としてこの郷里真田へ帰ってきた心というのは、郷里を思う愛郷心だったと言われております。この真田一族の持った愛郷心を子供たちに学んでほしいということで、今教育関係でも活かさせてもらい、また学校給食はすべて真田町産の米を使って、それによって郷土を愛する気持ちを育ててほしいと。こんなところでも幸隆公に倣う愛郷心を学ばせたいと願っているところでございます。

何よりもありがたいのは、本当にあの関ヶ原の戦で負けた真田一族を九度山町さんが庇護をしてくださって、そしてやがて大坂の陣に幸村公が出陣され、負けた後もいろいろな市町村で子女を引き取って養育し世に出していただいた、このようなありがたさは我々真田の血を引く子孫としては忘れることのできないありがたさでございます。本日白石市へお伺いしまして、いろいろな方々の温かさによって真田の血が保たれたということで、一族の発祥の里としてありがたく心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

今の真田家発祥の地、発祥したけれども上田ができ上がったのでみんな行ってしまったよという話、そしてもう一度この真田でもって真田町のまちおこしを一生懸命頑張っておるといようなお話を受けて大変感銘を受けました。ありがとうございました。

今度は上田市の矢島助役さんをお願いいたします。

上田市助役（矢島広道氏）



時々話題が出ておりますが、隣の信州上田市からやってまいりました矢島と申します。私ども上田市では、一昨年の平成11年に第2回の真田サミットを開かせていただきました。ちょうど市制施行80周年記念の年に当たっておりますので、「市制施行80周年記念事業」として開催をさせていただいたところでございます。その折には、関係市町村の皆様方に大勢ご参加をいただきまして盛大に開催できましたこと、この場をおかりしまして厚く御礼申し上げたいと存じます。

真田氏を活かしたまちづくりということでございますが、真田氏といえますと多くの方

がまずは上田城のことを思い出されるのではないかと、やや我田引水的にそう思っているところでございます。信州上田城は、徳川の大軍を2度にわたって退けた城としてその名を知られておりますけれども、とりわけ第2回目の戦いにつきましては、そのことによって時の徳川秀忠公が関ヶ原の戦いに間に合いませんで、お父さんの家康さんから大目玉をもらったという逸話つきの話もございます。その主役でありました真田一族の居城としてよく知られております。また、その真田氏の上田城築城とともに形成され始められました城下町が、現在の市街地の原型になっているわけでございます、こうした面からも上田と真田氏とのかかわりは大変深いものがあるわけでございます。

真田氏が築いた上田城は関ヶ原の合戦後に破却されましたために、その構造や規模などは残念ながらほとんどわかっておられない状況でありまして、今残っております三つの櫓、これは真田氏の次の城主であります仙石氏によって復元をされたものでございます。現在、平成2年度に策定いたしました「上田城跡整備基本計画」に基づきまして、再度復元整備を進めておりまして、平成4年から6年にかけては、本丸の東虎口櫓門の復元整備を行いました。また、その後も石垣の改修工事や尼ヶ淵と呼ばれます崖面の崩落防止工事、あるいは崖下の公園整備などを行っているところでございます。将来的には往時の姿に復元したいと考えているわけでありまして、大変大きな仕事になりますので、短期間での整備はなかなか困難な状況でございます。

いずれにいたしましても、上田市のシンボリックな存在であります上田城を歴史に学ぶ場、あるいは市民の憩いの場、また貴重な観光資源として、よりよい姿で後世に継承していくために、条件が整ったところから順次整備を進めてまいりたいと思っております。

また、市内には真田氏の関係の施設といたしまして、後ろに映っておりますか、池波正太郎真田太平記館という館がございます。この施設は、故池波正太郎さんの小説「真田太平記」の世界を訪れる人にお伝えをし、上田市の歴史を再発見していただくということで、池波家を初め多くの皆様のご協力をいただきまして建設をいたしましたものでございまして、間もなく開館3周年を迎えるところでございます。市外から足を運んでくださる方も大変多うございまして、中には毎年の特別展の度に遠くからお越し下さる方もいらっしゃるということでございます。

それから、直接真田氏に関連したものではありませんが、六花文(ろくかもん)、六つの花の文と書きますが、六花文という愛称の上田市のシンボルマークがございます。これは4年ほど前に一般公募によって制定したものでございますが、真田氏の六文銭をデザインいたしましたものでございます。上田市の象徴として今後も幅広くまちづくりの中に活かしていきたいと考えております。その他の事業につきましては、資料にございますので、またそれぞれごらんをいただきたいというふうに思います。

大変大ざっぱでございますが、紹介と近況にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

進行(我妻建治氏)

ありがとうございました。

上田市はどうしたって、これは上田合戦という大きな戦いを2回やりました。真田氏の武名というのは、最初は徳川を向こうに回して8,000なり1万の相手を2,000ぐら

いで向かい合ってそれで落ちなかったと。それから、3万の軍兵を持つ秀忠が関ヶ原の戦には間に合わなかったと。それを真田昌幸たちがやった。これは、何といたって上田市は売りどころでございます。随分昔からこの真田を売りどころにして、いよいよますます売りどころにしていくという感じがいたしました。

(群馬県沼田市西田治司市長が到着され、司会より沼田市の紹介後着席されました。)

進行(我妻建治氏)

それでは、次に長野市の久保教育長にお願いしたいと思います。

長野市教育長(久保 健氏)



長野市の久保でございます。

本日は、歴史のロマンを感じさせる白石市にお招きいただきまして誠にありがとうございます。長野市は1998年に冬季オリンピック並びにパラリンピックを開催した市でございます。そのオリンピックの感動を未来へどうつなげるかということの一つの大きなスローガンにいたしまして、新たなまちづくりを行っているところでございます。

先ほど当市の川井市長様がおそばの話をしていただきましたけれども、大変おいしいそばでございました。まさに名水、そしてそばということは私ども長野市も同じでございます。「信濃では月と仏とおらがそば」という句がございますが、その中の仏は善光寺でございます。善光寺は年間に約600万人の参拝客がございます。「一生に一度は善光寺参り」ということが全国でも有名でございます。それに対峙して真田家の居城でございました松代城があるわけでございますけれども、現在のところ年間に約20万人の観光客の方がおいででございますが、善光寺に比べてややということではなく、大変に開きがあるわけでございます。真田一族が、信之から始まって十代250年にわたり、この松代城を居城として栄えたわけでございます。そこへどのようにして観光客、そして市民・県民の皆さんのみならず、全国の皆さん方においでいただくかということが、オリンピックの後の感動を未来へということをつなげるわけでございます。

長野市民の方が、きょう会場にお集まりの白石市の皆さん方のように、「自分たちのまちからこういう武将が出た。そして、こういう武道にも秀でているけれども、人情にも厚い」と、先ほど来お話がございましたけれども、そういう先輩、先人に誇りを持ち、それを心のよすがにするということを私どもも学んでいきたいということでございます。

そこで、まちを案内する人たちに文化財ボランティアということですのですべてのことを任せ、どなたにも親切に、自分がわかっている範囲の史実やそれにかかわるようなエピソード等を説明できる皆さん方のお力をおかりしながら、真田の居城、そして松代全体のまちの雰囲気高めようとしているわけでございます。

その一つには松代城の復元がございます。大変お金のかかるところでございますけれども、やはり21世紀にこれからの時代を生きる子供たちのためにも、文化遺産として残すべきものは残すということで今整備をしているわけでございます。平成14年には太鼓門の復元が完了するわけでございます。あと北不明門、それから周囲の堀、これは埋め尽く



されてしまったわけでございますけれども、それを掘り起こすことによって、さらなるまちおこしに努めていきたいということが1点でございます。

もう一つは、まち全体を散策をしていただくこと。心に余裕を持って、ほっとするような歴史のただずまいのまちを歩んでいただくということで「歴史のみちすじ整備事業」という、随所にいろいろな遺跡がございますが、松代城を拠点としてつなげていくというような施策にも取り組んでおるわけでございます。

また、真田氏は松代藩主として信之公から始まりまして幸民公までの十代、250年間あったわけでございますけれども、その皆さん方が使われた調度品、それから甲冑類、それから古文書、すべてのものを幸民公に寄贈していただきましたので、真田宝物館を開いたわけでございますけれども、この数万点に及ぶような大事な文化遺産でございますが、それをどのようにして皆様方に公開していくかということもこれは大事な使命ではないかと考えているわけでございます。

そのほか、信之公から始まりまして、その代々の治世をしっかりとやっていただいた真田一族の皆さん方の御霊屋を初めとして遺跡がたくさんございますので、それをリニューアルしながら、そして今の若者を初めとしてこれからの世代の子供たちにも、よりよい歴史を学ぶということの意味を伝えていくような、歴史の雰囲気は漂うようなまちにしていきたいと願っているわけでございます。

どうか白石市の皆さん方より、ご助言等をいただきたいというお願いを申し上げまして紹介にかえさせていただきます。ありがとうございました。

#### 進行（我妻建治氏）

今、長野市の久保教育長さんのお話、これは長野では善光寺、これから松代にも力を入れると。松代は町の時代から随分観光に力を尽くし、旧跡には力を用いてこられたわけですが、いよいよ海津城といえますか、信玄が謙信と対応するときにつくった例の川中島の戦のときの海津城ですが、あれを復元するのかという話を聞いて大変びっくりしております。海津城（松代城）ができることをお祈りいたしたいと思います。

それでは、次は月夜野町の小林町長にお願いしたいと思います。

#### 月夜野町長（小林雅男氏）



白石市の皆さんこんにちは。今回のサミットに当たりまして、白石市長さんを初め白石市の皆さんに心からありがたく感謝申し上げる次第でございます。

そのようなことで、地元の白石市長さんが以前このようなことを申されたことが今私の脳裏に浮かんでまいります。ということは、第4回の会場が白石市に決まったときに、私らが決定してお祝いを申し上げましたら、市長さんは「しかし、僕の手でやれるかやれないかわからない」ということを言ったんです。というのは、既に5選目の選挙を控えていたんです。ですから、そういう寂しいことを言った。きょう来てみたら、第5選目も圧倒的な勝利で当選できて、自らの手で自らここに開催できたということは本当に私は喜んでおる次第です。本当にありがとうございました。

そういうことで月夜野町ということで、この町名を見ておわかりでしょうが、これは「日本一美しい町名」ということで自負しておるわけでありまして。それで、先ほど農産物の展示会場へ行ったら、この名札を見て「きれいな美しい町名ですね」ということを二人に言われた。ですから、この町名が美しいということと、もう一つ日本一の自慢できるものがあるんです。これはホタルの里なんです。これは、今「日本一のホタルの里」ということでまちおこしをしております。このホタルは今環境のバロメーターということで、大変全国においてもお金をかけてまちおこしをしております。ですけれども、幾らお金をかけてもどこでも出るとは限らない。この蔵王の水というのがここにありますが、今飲んでみたら大変うまい。ホタルもまずはこの水がきれいでないとだめなんです。二つ目は空気、三つ目が何かというと、そこに住む町村民の心、ハートがきれいでないとだめなんだよね。その三つがそろわないとホタルというのはすめないということでございまして、きょうも約6時間ぐらいかけてここへ来ました。飛んできました。月夜野町は夜ホタルが飛んで、昼間は何が飛ぶかということ、きょうは町長が飛ぶんですね。きょう6時間も飛んできたんです。なるべく夜は飛ばないようにしよう。そんな美しいきれいな町であるということを引きょうここで皆さんにPRをさせていただきました。

交通関係におきまして、町の中央に上越新幹線の上毛高原という駅があります。群馬県にたった三つの駅でございまして。そして南北にインターが二つ、これ70平方キロメートルぐらいの小さな町ですけれども、国道が二つと在来の駅が二つと幹線交通網には非常に恵まれた町であるということでございまして。

そんなことで、きょうは真田にゆかりのある発表をしなければならぬのですけれども、私の町は先ほど見えた西田沼田市長さんの隣です。昨年来た方はおわかりでしょうが、そういう隣の町で真田藩が五代、約100年続きました。沼田藩の城下町ですから。そういうことで真田伊賀守信澄という五代目の藩主ですが、その藩主が幼少のころ、少年時代に十何年か住まわれた小川城というお城が上毛高原の新幹線の駅の前にございまして。そういうことで、真田伊賀守が沼田藩になるということはあったんですけれども、その前に松代の10万石の藩主になるという説もあったわけなんです。おいしいがな、正室の子供ではなく側室の子供であるがために松代に行けなかった。沼田藩は3万5,000石ぐらいですからね。片方の松代は10万石ですから、やはり大きな石を持ったところにいたいのは当たり前だと。でも、そういうことで行けなかった。それでは、本家の松代に負けない石高を上げるということで、14万石にするということで真田伊賀守は頑張ったわけなんです。そういうことで、民百姓に過酷な税を強いた。それがわざわざ達成できなかった。当時、両国の橋のかけかえ等にもミスを犯して、最後の五代藩主が真田伊賀守信澄ということで改易になってしまったわけでございます。そんなところが一つ。

もう一つは、この資料にございましてように名胡桃城というのがございまして。これは豊臣秀吉が天下統一のきっかけをつくったところのお城でございまして、非常にこれは有名なお城でございまして、このお城の城址公園として今整備をしております。そういう月夜野町でございまして、どうかおいでの節は月夜野町をお忘れなく、月夜野ということで一度聞いたら絶対にこれは忘れない非常に美しい町名ということなんです。そういうことで、これからこの12市町村が今後さらに発展するとともに、いずれは月夜野も会場地にしたいという考えでございまして、よろしく願いいたしまして終わります。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

月夜野町、これは越後境の方になるわけでございますね。確かに昼は町長、夜はホテルということでございましょうけれども、有名なものでは礪茂左衛門というようなところがありますし、非常に珍しい民家もあるところでございます。ありがとうございました。

次は、孺恋村の松本村長をお願いいたします。

孺恋村長（松本 先氏）



皆さんこんにちは。群馬県孺恋村村長の松本先でございます。

きょうは白石市、私はこちらの駅におりたのは初めてでございますけれども、昨年あるいは一昨年、市長さんに「今度はぜひ白石の方にも」というお話もいただいておりますので、楽しみにして参加をさせていただきました。空気もまちもとてもきれいで素敵なおところだなと思えました。

私の村は真田の町長さんの隣ですが、県境がございまして真田町は長野県、私どもは群馬県。しかし、昔から兄弟のような何となく一族なんだなということをいつも感じながら育ってまいりました。

私の村に「猿飛佐助修行の地」というのがありまして、私は小さいときから「ここで猿飛佐助が修行したのかな」と。霧隠才蔵とか三好清海入道とかそんな漫画を読みながら大変心を躍らせたことを覚えております。また、そんなことを通して武田信玄や上杉謙信の戦、さらには織田信長や秀吉の天下統一なんていうことをいろいろ思いめぐらしたことを覚えております。私どもの村の人たちは何となくそんなふうにながら、自分たちは真田の一族なんだなと、こんなことを心に抱いていたように思います。

私どもの村にはお関所がございまして。この資料の中にもございましてけれども、沼田藩主が関所をつくり、ここを通行する人を取り締まりました。しかし、昔からの抜け道というのが今もありますが、手形を持たないでそこを通行することのできない人がいたときには、村の人たちがそうと「ここを歩いて行けば信州に出られるよ」ということで教えてやったということです。厳しく取り締まる一方でそうした人たちに温情も与えてやった。そういうことは非常に大切なことなんだなと。私は今も、そんなことの話聞きながら、やはり政治の世界にも行政の世界にも、ただただ取り締まるだけではなくて、生活をする人のことをまず考えて、そして物事を進めるといことも大切なことなんだなと、そんなことをこの関所のことを通して教わったように思います。

私ども孺恋村はキャベツの産地でございます。きょうこちらへ来ましたら農業まつりをやっております、キャベツ、白菜、大根、それから馬鈴薯がたくさん展示されておりました。「こんなにキャベツがあると困るな」と思って係の人に聞きましたら、「いやそんなに大した量ではないですよ」と言われたのでほっといたしました。宮城県仙台市の市場まで孺恋村からトラックで運んでおります。私どもの村は1年間に2,000万ケース、100日で毎日10トン車200台ずつ出荷をさせていただいております。真田の子孫としては、そういう面で国民にお役に立とうと、こんなふうになっております。先ほど我妻先生を初めいろいろの方からお話がありましたけれども、真田氏ゆかりの市や町・村がお

互いに力を合わせ心を合わせていく、そして地域の人や国家社会の役に立とうとする、非常に大事なことはないかなと思いますので、これからもぜひこうしたことをお互いに大事にしていきたいなと、そんなことを私どももできる立場から努力をしたいなというふうに思っております。

今私どもは、隣の真田町さん、それから上田市さん、こうした長野県の真田一族の市町村と力を合わせて、きょうこちらにもいる長野原町、吾妻町、中之条町、みんなで協力をし合って地域の高規格道路をつくろうということで努力をしておりますが、一族が協力をして道路を建設したり、あるいは地域を発展させるためのいろいろな努力をしていこうと思っております。

きょうは北の都・白石市にこういう機会を得て来られたことを本当にうれしく思っております。群馬県の嬭恋村、どうぞこれからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

嬭恋村のキャベツというのは大変東京でも有名なところでございます。真田ゆかりのまちは、本当に群馬県それから長野県県境周辺にたくさんございますので、これが一つになっているいろいろな計画が立てられつつある。大変力強く思います。

次は、同じ長野原町の永井助役さんお願いします。

長野原町助役（永井 勉氏）



長野原町助役の永井でございます。本来ですと町長が出席をするところでございますが、公務のために出席ができません。大変恐縮でございますが、代理の永井ですが一言ごあいさつ申し上げます。

初めに、川井白石市長さんのお招きをいただきまして、真田サミットに出席をいただきまして大変光栄の至りでございます。真田サミットの開催の目的が、真田氏にゆかりのある市町村が新世紀を記念しまして、白石市に集いまして交情を高めるといことは大変すばらしいことで、この計画に感銘をいたしております。

真田氏とのかかわりについてでございますが、実は隣の嬭恋さんもお話をしましたが、嬭恋の隣町が私の町でございます。人口は7,000人という大変小さな町でございますが、明治22年に町村制をしきましてから合併も編入もなく112年という歴史を重ねておる町でございます。

真田氏とのかかわりの中では、特に中世の頃でございましょうか、永禄6年（1563年）頃でございますが、ここの後のパネルにもございますように、羽尾氏というこれは海野氏の一族でございます。この興亡を中心にしまして西吾妻とっておりますが、言うならば越後の上杉（岩櫃城）、それと甲斐の武田氏（長野原城）、このはざまの中で戦国時代のドラマが展開をされておるわけでございます。長野原城がござまして、その合戦記は非常に壮絶を極めまして、武田氏の配下の農兵が集まらず、真田氏の配下であります、6ページの幸隆公でございますが、そのわきにあります常田氏が長野原城を支えておりました

が戦死をいたしまして、幾度となく繰り返されたと加沢記に書いてございます。

近世に入りますと、長野原町は真田昌幸公支配の沼田藩の所領地となったわけですが、天和元年伊賀守信澄が非常に苛斂誅求かれんちゆうぎゆうを極めまして領民に重税を課したと。こんなことで91年間の統治がされたわけですが、除封をされたようでございます。

私の町のコンセプトにつきましてお話を申し上げたいのですが、実は昼食のときに市長さんからダムの話が出まして、市長さんがこの東北方面のダムの建設に大変リーダーシップを持っておられるというお話でございますが、実は私の長野原町は同じく国の直轄事業でありますハツ場ダムというダムがございます。これは国土交通省直轄の建設事業でございますが、首都圏、東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、茨城県、この関東地方の利根川水系の最後の巨大なダムでございます。総貯水量が1億750万立方メートルということで、洪水調節と飲料水、工業用水に利用する重要な役割を持っておられるためでございます。国は脱ダムというような中でございますけれども、首都圏の工業用水または洪水調節ということで、ことしの6月に補償協定が調印をされまして、いよいよ今生活再建と基幹整備に着手をしておられるわけでございます。今ダムが大変町のあらゆる行政につきまして大きな課題になっておりまして頭が痛いところでございます。

いずれにしても、きょう白石市長さんのお招きをいただきましてサミットが開催されました。川井市長さんにまず大変お世話になったことを感謝申し上げまして、また市民の皆さんのご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。大変簡単でございますが、一言ごあいさつにかえる次第でございます。ありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

それでは、次も上州吾妻郡でございますが、吾妻町の一場町長さんお願いしたいと思います。

吾妻町長（一場 貞氏）



ご紹介いただきました吾妻町長の一場でございます。

実は私はいろいろな日程の都合がありまして昨日こちらへお邪魔をしたわけでございます。お昼を食べた後、宿を出ましてまちの中を歩いていろいろ史跡を回りました。まず最初に白石城、そしてミュージアム、ここでは立体ハイビジョン、阿梅の方を父幸村がこの片倉家をお願いをする場面でございます。それから、片倉小十郎とその家臣団の展示会もございました。その後、武家屋敷に参りまして武家屋敷を見学し、さらに歩いて、相当離れておりましたが片倉家城主の廟所がございまして、そこも歩いて行って拝んでまいりました。今朝はまた宿を出まして、当信寺というお寺に歩いてまいりました。そこで大八、それから阿梅の墓をお参りをしてここへ駆けつけてまいりました。

この半日ちょっとでございましたけれども、この間、私は白石市民の皆さん非常に親切にいただき、特に白石城では解説ボランティアの鈴木さんというご婦人の方に、非常に懇切丁寧に私どもに解説をしていただいております。きょうこの会場においでになるというお話でございます。それから、例の片倉家歴代のお墓に参りましたときに、柿をもい

でおりましたおじさんがおりましたが、私が群馬県ですという話をしましたら、「実は私の父は群馬県の水上温泉です。今も水上に土地を持っておりまして、時々そちらへ帰っております。縁があるんですね。」ということでありました。そのほかいろいろな方にお会いしましたけれども、私が感じたことは、この白石市民のどなたもがこれまでの白石の歴史・文化に対して非常に大きな誇りを持って生活をされているということを感じたわけでありまして、これはまさに市長さん初め市民の方々がそうした気持ちで一致しておられるんだなということを感じました。こうしたことこそ私どもの町でも参考にしなければいけないなど、こんなふう感じた次第でございます。

きょうは実は自分の町のほらを少し吹きたいのでございますが、時間がございませんので町自慢は省略をしまして、早速真田氏に関するお話をさせていただきたいと思っております。

私どもの町は、西の長野県上田城、あるいは真田城、それから一番東にあります沼田城、この間に挟まれた岩櫃城というお城のある町でございます。この町には、標高802メートルの岩櫃山という非常に岩肌のごつごつした山がございます。私どもの町のシンボルとしている山でございますけれども、この山の中腹に岩櫃城という城があったわけでありまして。残念でございますけれども現在は建物はございまして、二ノ丸あるいは本丸、そうした遺構というか遺跡が残っております。空堀等も残っております。この城をめぐりまして、永禄6年(1563年)でございますが、武田信玄が上州侵略のために真田幸隆にこの岩櫃城の攻略を命じまして、幸隆がこの城を落として城主となったわけでございます。以後30年弱でございますけれども、この岩櫃城の城主として真田家が支配を続けてきました。

時が流れて天正10年、真田昌幸は織田・徳川の連合軍に攻められていた武田勝頼を武田の再興を図る目的で岩櫃城に迎え入れようということで、これはお話によりまして御殿を築いて、そしてお招きしようと。この御殿を3日間で建設をしたということが言われているわけでありまして。実は、この武田勝頼は岩櫃城に来る前に天目山の戦いで自刃をしまして、ついに来ることはできなかったわけでありまして、この御殿は昌幸の一族でございます根津潜竜齋という山伏がおりまして、この山伏が拝領してお寺にしまして、巖下山潜竜院というお寺をつくりました。このお寺も現在はございせんけれども、石垣が残っているわけでございます。

天正18年になりまして北条氏が滅亡し、一度北条氏の支配下に置かれておりました沼田は、再び真田氏の支配下になります。それで、昌幸の嫡子でございます真田信幸は、初代沼田城の城主となりまして、岩櫃城はこの沼田城の支城になったわけでございます。

しかし、時が流れまして江戸時代になります。慶長19年、城下町の平川戸に、きょうの白石市の農業まつりのように非常ににぎやかな市が立ちました。これをどうやら徳川家康が不思議に思ったということで、城主の真田信幸は岩櫃城を破却いたしました。そして、城下町を平川戸というところ、現在もその跡が残っておりますけれども、そこから現在の私どもの町の中心地でありまして観音原というところに移して現在の町ができているという歴史があるわけでございます。

さて、私どもこの岩櫃城を今後どうしていくかという課題があるわけでありまして、その一つは、この岩櫃城という多くの史家が注目をし、非常に大事にしている史跡でございます。

ますけれども、これがまだ町の文化財の指定にしかになっていない。何としてもこれを県指定に、行く行くは国指定に持っていきたいというのが私どもの願いでございます。

しかし、地権者が全域にまたがりますと120名ほどおりまして、なかなか地権者のご了解をいただくというのが非常に困難でございます。要害地区、つまり本丸とか二ノ丸とかそうした要害地区だけでも48名の地権者がおりますものですから、まずはその地権者の方々のご了解を得る中で県指定に、そして国指定といくかと、こんな願望を持っているところでございます。

昔を偲びまして、現在は11月3日文化の日に「岩櫃紅葉祭」、そして8月の第1日曜日は「岩櫃まつり」という行事を行いまして、戦国のありし日を偲んでいるというのが現在でございます。どうも大変まとまりませんが、以上申し上げまして私どもの町の発表にかえたいと思います。ありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

冒頭に白石市と市民の心を随分褒めていただきまして、ありがとうございました。

岩櫃城跡が国指定の文化財になるとよろしいですね。

今度は中之条町の唐澤館長さんをお願いします。

中之条町歴史民俗資料館長（唐澤定市氏）



中之条町歴史民俗資料館の唐澤です。小淵光平町長に代わって申し上げたいと思います。

真田氏と私どもの町とのかかわりを考えてみますと、真田氏は信州小県郡の小さな集落から始まりまして、小県、佐久の2郡を掌握し、やがて上州にやってまいりまして吾妻、利根郡を含めた4郡を支配するようになりました。真田氏が吾妻地方に初めて入ってから約20年で吾妻を支配し、それから利根に進出をしております。そして、天正10年（1582年）に武田家が滅亡した後、この4郡を完全に支配する戦国大名として発展しております。それがやがて江戸時代の幕藩大名に続くわけですが、そのときに信州の2郡と上州の2郡が分かれ、上州は沼田真田藩に入りました。

中之条町には、真田氏とのかかわりについての幾つかの事例があります。この資料にも載せておきましたけれども、ちょっと報告させていただきたいと思います。町や村、あるいは個人の歴史もそうですけれども、ある程度の資料の裏づけを持ってさかのぼれるところは大体戦国時代までです。そういうことで、この戦国時代までの歴史の中で、中之条町は東吾妻の盆地の中央で、周辺の里からいろいろな物資が集まってきて市場が開かれて発展をした町であります。そして、その町が始まったのが近世の初めであり、真田氏によって開かれた町、真田氏の時代につくられた町ということが言えます。

町のほぼ中心に高山（<sup>たけやま</sup>嶽山）という山があります。かつてここには、先ほど吾妻町の一場町長から紹介がありました岩櫃城の真田氏と対決をした、吾妻の土着の武士たちのよりどころとなりました嶽山城がありました。これが真田氏の武略によって攻略されまして、そこに落城の歴史があるわけです。その古戦場の跡は今は町の活性化センターになってお

りまして、そば打ちの体験施設があったり、あるいは100%そば粉によるそば処があったりして大変にぎわっております。そしてまた、町の東側の名久田川の河岸段丘上にあります横尾八幡城というお城ですが、このお城には天正16年に真田信之の朱印状が残っております。その朱印状には63名の吾妻の武士たちの名前が書かれておりまして、弓、槍、鉄砲の得物と、その下に名前が書いてありますが、その名字と現在の吾妻地方の人たちの名字が一致するわけです。そういうことで、吾妻地方の人たちのルーツを探るときに、その八幡山番帳に突き当たるわけですが、一番よりどころになる資料となっております。

慶長5年(1600年)は関ヶ原の戦いですが、その2年ほど前の慶長3年、中之条町の北に四万(よんまん)温泉と書く四万(しま)温泉がありますが、ここに建築された日向見薬師堂に棟札があります。この棟札はそのお堂とともに明治45年2月8日に国宝に指定されました。戦後は重要文化財になっておりますけれども、この棟札の中に、「大檀那真田伊豆守信行(信幸)の武運長久を祈ってこのお堂が建てられた」ということが記されております。

また、四代目の真田信政公の時代には中之条町の伊勢町に間歩(まぶ)用水という用水を築いております。真田氏が開いた用水のおかげをもって町が大変潤っておるという事実もあります。真田とのかかわり、そういうふうな真田氏との縁故によってこういうふうな会に出席させていただいているということに改めて感謝している次第です。

進行(我妻建治氏)

ありがとうございました。

中之条町の歴史資料に裏づけられたお話を今伺いました。興味深く伺いました。ありがとうございました。

次は、沼田市の西田市長さんお願いします。

沼田市長(西田治司氏)



きょうは遅れて参りまして恐縮でございました。沼田市長の西田でございます。

実はきょう10時から、新世紀記念事業として沼田市では2,001本の桜を植えようということで、2,000人の市民の皆様方がスコップを持って1カ所に集まりまして、それぞれ寄附金も全部2,000円ずつ出させていただいて、まさにボランティアできょう10時から植樹が始まっていたということで、そちらの方へ出てきたものですから、遅れて参りまして恐縮をいたしております。

この2001年を記念して2,001本の桜でありますけれども、2,000本は市民あるいは沼田市から外に出ておられる方々、思いのある方々に集まさせていただいて自分たちで植えていただくという趣向であります。あと一本、最後の2001年の1本は、これは皆さんのお手元でございます沼田市の案内のところに出ておりますが、沼田城の跡にございます御殿桜という桜があります。この二世木を前から準備しておりましたので、これを2,001本目に植えようということで、そちらを植えるのは私はこちらへ来る都合で植えられませんでしたけれども、そんなことがあって遅れてきたということで、まずお



詫びをしなければなりません。

先ほど月夜野町の小林町長さんがちょっと触れられましたけれども、何年か前のNHKの大河ドラマ「元禄繚乱」ですか、あのドラマのスタートが、先ほど言われましたように江戸両国橋かけかえの特命を受けた沼田藩が、そういうトラブルを起こして間に合わなかったということでお取りつぶしになるというお話がありましたが、それ以来ずっと沼田市は木の町というか、木を江戸の方に送りながら栄えてきた木のまちでありますので、今でも産業は圧倒的に木が多いわけであります。

この沼田市は随分古くから栄えたまちでありまして、そもそもは三浦家沼田氏というのが小さな社をつくって築城いたしましたけれども、何といても沼田氏以来、沼田の骨格をなしたのは、真田氏による沼田城の歴史とそのまま進んできているというのが現状でございます。先ほど来お話の信之公がこれを築城するわけでありまして、五代の伊賀守信澄によってこれは破却されます。それまでの間、真田の城下町として栄えに栄えました。その沼田は、今でも六文銭があちこちの方から出てまいりまして、これは寺や神社はもちろんでありますけれども、一般の民家の中でもいろいろなところで六文銭が書かれています。

そうした古い歴史を持っておりますが、この沼田市は真田、やがて本多、黒田、土岐と4氏300年にわたって城下町として栄えるわけでありまして、現在はまちづくりにどういうふうにかこれを活かしていこうかということで、まず現在は沼田公園という公園になっておりますかつての城址、この城址公園をこれからのまちづくりの中核にしていこうというふうに考えているところであります。ことしから何とかスタートしようと思って、まず二重櫓が一番史実にもはっきりしてまいりましたし、掘り出してみたらはっきりしてまいりましたので、二重櫓からスタートいたそうと思っていたら、先ほど来お話の沼田城時代から続いているという御殿桜を切りませんとこれが建たないということになりまして、これもまたしばらく様子を見ようというような状況になっております。その点、白石城がいち早くつくられたということは大変うらやましい限りでありまして、小林町長さんなんか早くつくれということで、利根郡下の町村長さんからは大変私の方にハッパをかけられるんですけども、どういうわけだか普請奉行をやる人はいるんですけども、勘定奉行の引き受け手がなかなかいないものですから思うようにいかないのです。その点、川井市長さん立派だなと思っております。

また、実は先ほどお話した、きょう植樹祭をやった場所は全国植樹祭の会場地でありますけれども、白石市の翌年の平成10年に全国植樹祭、天皇皇后両陛下をお迎えした植樹祭会場に今朝行ってきたわけでありまして、それより1年前がこの蔵王の白石市で行われました。どういうわけだか一步ずつ遅れておりまして、川井市長さんは全国市長会の副会長さんという大変お偉い方でありまして、どういふわけだかこれもまた2年私よりも早く市長になって、何でも沼田市は白石市を後から追いかけているというような状況でございますので、これからはいろいろとご指導をいただく機会が多いと思っておりますが、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思っております。

先ほどから月夜野町であるとか吾妻町であるとか嬭恋村であるとか、あるいはただいまの中之条町などがみな沼田の支城であった、あるいは出先であったというようなお話がございまして、例えばなかなか堂々たるものでありまして、ただいまの唐澤先生は、

もう歴史においては群馬県でもナンバーワンという歴史研究の大家でありますけれども、きょうかわりに来られました小淵光平町長さん、これは小淵恵三元総理大臣のお兄さんでありますから、なかなか沼田藩の関係の市町村は大変すばらしい発展ぶりでございます、本家本元の沼田市長としてはじくじたる思いがありますが、これからは白石市さんのご指導もいただきながら追いかけていきませんと真田のお殿様に申しわけない、こんなふうに思っております。

最後に一つだけ申し上げますと、きょう沼田で行いました2,001本の桜の植樹も、先ほど来、沼田を愛して沼田をふるさどと思って沼田から出ておられる方に声をかけましたところ、真田から始まった真田、本多、黒田、土岐とこう申し上げましたが、土岐家の正式のご城主でございます土岐實光さんという方がいらっしゃいますが、この方のご協力により、土岐桜というのを200本そろえて植えることとなりました。その植える場所が実は真田堀という名前で行われておりますが、沼田城は台地の上につくってあるために、延々15キロにわたって遠くから水を引いてきておりますけれども、そここのところへずっと植えてありました桜が、道路拡張でこれを切らなければならない運命になってまいりました。それならば、真田のお殿様が植えたのならば、最後の土岐の殿様が桜を植えようということで、土岐桜として植ることとなった。この土岐さんは、お隣のところにあります、こちらの方にも幾つもお縁があるなかなかの名門大名でありますけれども、そんなこともお話を申し上げながら、今でもまちづくりは延々と沼田城時代から続いているということをお話し申し上げてごあいさついたします。ありがとうございました。

#### 進行（我妻建治氏）

沼田市は、「森林文化都市」を宣言して着々とお進めいただいているようでございますし、2,001本の桜の木を植樹するというようなことをきょうおやりになってこられている。さらに、沼田城をどうするかということでいろいろ今お考えになっていると。大変興味深いお話でございました。ありがとうございました。

今度は、真田ゆかりのまちとしては、今のところずっと一番北でございます岩城町の加藤町長さんお願いします。

#### 岩城町長（加藤鉦一氏）



皆さま、こんにちは。

ただ今ご紹介いただきました秋田県岩城町長の加藤です。

我が岩城町は真田との縁のある自治体としては、恐らく一番北に位置するのではないかと思います。また、唯一、日本海に面しております。冬の日本海は風雪やら、それはもう厳しいものがあるわけですが、そうした場所になぜ真田幸村の五女・お田の方がおこしになられたのか？これは少々話が長くなりますので割愛いたしますが、史実として、私ども

岩城亀田藩の二代藩主の奥方としてお田の方がおこしになられました。

亀田藩を統治されました岩城氏は、その昔福島県いわき市一帯を治めおられましたが、関ヶ原の戦い、また大坂冬の陣・夏の陣といった一連の戦いの際に徳川に味方しなかったために、領地没収そして流浪の後、川中島1万石から移封となり亀田2万石を領されました。

この写真にあります妙慶寺というお寺ですが、お田の方が開かれたお寺でありまして、これが真田幸村の五女・お田の方のお墓であります。ここにはお田の方と弟である幸村の三男・幸信のお二人が眠っておられ、現在も住民の皆さんが毎年追悼会を行っております。亀田におこしになった時に身に付けられていた、六文銭の付いた鎧・兜も残っております。今、町ではこうした歴史遺産を活かし「史跡保存伝承の里」「歴史を生かしたまちづくり」ということでまちづくりを進めております。

先ほどから様々なお話がありますように、私どもも歴史の縁・絆というものは大変大事であると思っております。岩城家の18代のご当主様は今も年に5～6回は町にお見えになられます。そして今なお、町のことを思い、「今、現在自分があるのは、その昔から三百数十年にわたって皆さんのお世話になったからである」とよく話されます。私どもは、そうした思いに応え、住民の幸せのためのまちづくりをしなければならない。あらためて、この歴史の縁・絆ということの深さを感じずる昨今であります。

私どもの町では、前町長がぜひ城を復元したいとして、こちらの白石城のように史実に基づいた立派な城ではございませんが、分相応のと申しますか、少々大きいかもしれませんが城をつくりました。内容としては観光施設であります。美術館も城形に造りました。また、町の特産品としてワインを醸造しております。年間十数万本ほど出荷しておりますが、その工場も城形、お城のワイン城でありまして、三つの城のある町として、年間100万人くらいの観光客が訪れる町になっております。

そういう縁を大事にしながら、ようやく町も昨年、過疎地域の指定から脱却をいたしました。地理的には秋田市と本庄市のちょうど中間に位置しております。人口減少にも歯止めがかかり、ことしの12月1日にはJRの新しい駅が開業しますし、来年には日本海東北自動車の岩城インターも開通することになっております。

再来年は岩城町が当番をやるようにというお話がありましたので、お引き受けすることにいたしました。今度は是非とも皆さまに岩城町においでいただきたいものと願っております。

きょうは本当にありがとうございました。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

それでは、最後に白石市の川井市長からお願いいたします。

白石市長（川井貞一氏）



実は、沼田市の西田市長さんのお話を聞いて大変感激いたしました。つい先日の全国市長会の役員会の際に、わざわざ私の席においでになりまして、「昨年おまえが来たんだから僕は必ず行くよ」と、こうおっしゃいました。まさか2,001本の桜を植えるという沼田市の大イベントがその日に重なるとは思いませんでした。それを途中で中座をされて、こちらにおいでいただいたということに大変感激をいたしております。ありがとうございました。

先ほど九度山町長さんから「九度山でやるときは真田十勇士に一人ずつ扮してもらうんだ」というお話がありましたが、そうしますと私は多分三好清海入道あたりかなと。それではどうしようかなと思っている、そんなような人間でございます。

どうして今回真田サミットを白石市でという願いをしたかということについてお話ししたいと思います。要するにまちづくり、まちおこしというのは人であります。人がまちをおこすわけでありますが、その人が、そのまちの歴史とか、そのまちの文化とか、そのまちの自然にプライドを持たなければ、とてもまちおこしなんかできるわけがございません。

そういう意味でいいますと、はっきり申しまして真田幸村という人は、二代將軍秀忠にとっては憎んでも余りある人間だろうと思います。何せ上田城の2度目の戦いのときは、そこで食いとめられて関ヶ原の戦いに間に合わなかったわけでありますから、下手をすると二代將軍なんて首になる可能性があった。それを邪魔したのは結局幸村でありますし、その後、大坂夏の陣では家康を自殺寸前まで、腹切り寸前まで追い詰めたということであります。

その真田の子弟を二代重長が引き取ってきた。これは、実は大変な冒険だったろうと思います。しかし、私は片倉家というのは本当に伊達の忠臣でありますから、政宗に黙ってこういうことをしたとはとても思えないのです。ところが、政宗というのはご承知のとおり英雄であります。英雄というのは言葉をかえていうと煮ても焼いても食えない人間でありますから、多分「よし、ここで真田を引き取っておけば、その後はもう一回天下をねらうチャンスがあるだろう」と。2度ぐらい失敗していますからね。そのために「よし」と言ったんでなかろうかなと思う。それに対して二代重長は忠臣でありますから、万が一ばれたら自分がひっかぶればいいと、そういう気持ちで真田の阿梅さんをまず引き取ってきたということだろうと私は思わざるを得ないのです。でありますと、その二代重長の持っている男気と申しましょくか侠気と申しましょくか、これは我々その子孫として学ぶべき点がいっぱいあると。こういう気持ちこそまちおこしにつながるものだと、こんなぐあいに考えております。

きょうご来賓としておいでの片倉邦雄先生、湾岸戦争が終わった後で、ある場所で三塚博先生のご仲介で外務省の幹部と一緒に慰労会を催しました。私も「おまえ来い」と言われ参りました。そのときに「大使よくここまで頑張られましたね」と言ったときに、「僕の血の中には坂上田村麻呂の血と真田幸村の血が流れている。そして、片倉喜多の名跡を継いだというそのプライドが最後まで頑張った大きな原因だ」と、このようにおっしゃったのを今でも覚えております。したがって、そのようなプライドを持つこと、実はこれがま

ちおこしの最大のエネルギーだと、このように考えます。

そして、そのことは実はすぐに報われるんです。先ほど我妻学長の話の中で、三代景長、これは阿梅の方の庭訓と申しましょうか十分な教育を受けて育ったと言いますか、実は有名な伊達騒動のとき、三代景長は幕府から命ぜられて伊達騒動の後始末をいたします。ですから、もっと極端に言えば、歴史に「イフ」はありませんけれども、「もし」はありませんけれども、もし阿梅の方を重長が引き取ってこなかったら伊達がつぶれたかもしれない。阿梅の方の教育を受けて、景長という人間がそれほど、要するに後始末を全部お前がやれと言われるぐらいの人間に成長していなかったら、伊達もつぶれたかもしれないということも言えると思います。

そういういろいろな意味で、この歴史を踏まえ歴史を大切に、それを誇りと思って白石のまちの発展に、まちおこしにつなげていければと。例えば白石城の復元もそうであります。決して観光のために私はつくったつもりはございません。白石市民にこの歴史を持つまち、このすばらしいまちを誇りを持って生きていくまちにしたいと思ってつくりました。ところが、残念ながら余り観光客が来過ぎて観光の面ばかりクローズアップしているのは、私にとっては本当は本意ではない。そういうことであります。そういう意味で、これからはぜひ真田の精神を受け継いで、このまちおこしに努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

進行（我妻建治氏）

最後に白石市長の川井節が出てまいりましたのでありますが、ありがとうございました。

きょうのサミット、13市町村のご出席の皆さんから、これまでのまちづくりの事例とこれからの施策等々についてご発言、ご報告をいただきました。

そこで、これからこの真田氏ゆかりの市町村が連携して行う施策にどのようなものがあるんだろうか。この際、ご提案があればちょうだいしたいということでございます。

先ほど打ち合わせの中で、白石市からぜひ提案したいということで、そのことについて皆さんにお諮りしようかということがございますが、この件について川井市長から説明をするようにいたしてよろしゅうございましょうか。（拍手）

それでは、川井市長の方からぜひ提案したいとお考えになっていることについてご説明をお願いしたいと思います。

白石市長（川井貞一氏） 前回沼田市でサミットが行われましたとき、私の方から「真田電子博物館」をつくったらどうであろうかという提案をいたしました。

本市では早速作成をいたしまして、本年9月にリリースいたしました。その際、関係市町村の皆様方には各市町村のホームページのリンクをご承諾をいただきまして大変ありがとうございます。

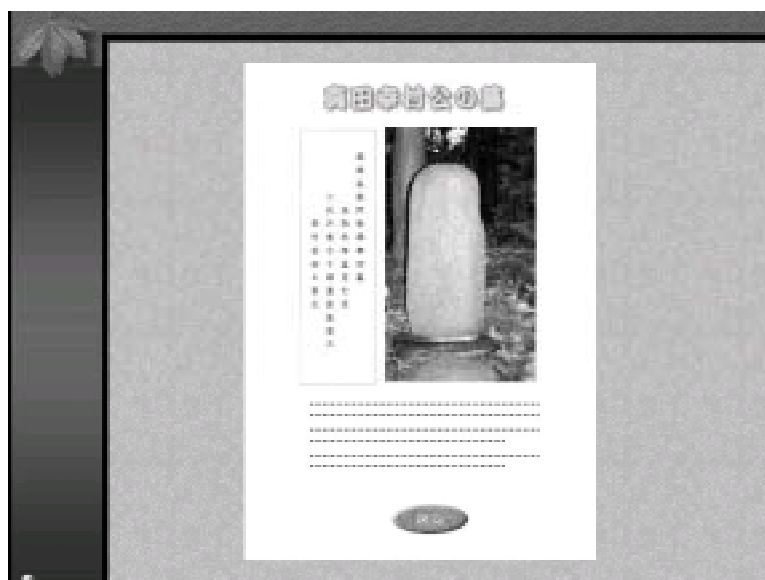
その白石の「真田電子博物館」に掲載されている内容につきまして、まずは担当より説明をいたしたいと思っておりますので、ひとつ画面の方をごらんいただければと思います。



白石市振興課長（大野恒男氏）

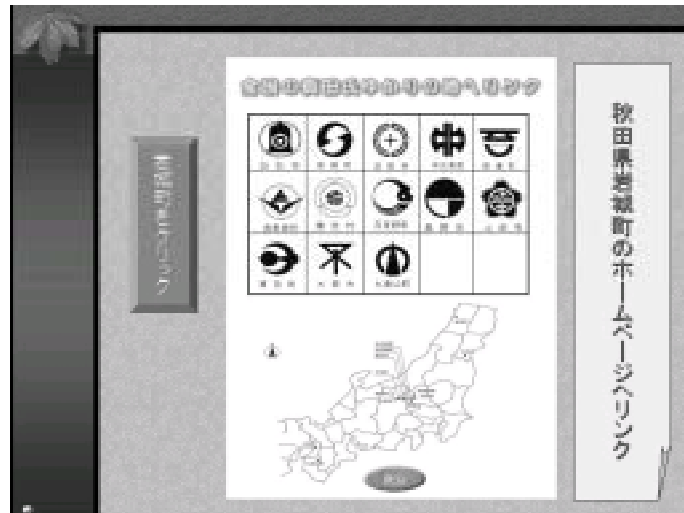
それでは、担当から「真田電子博物館」に掲載されている内容についてご説明させていただきます。

後ろのスクリーンをごらんいただきたいと思います。このホームページの目次にリストを掲載しております。ちょっと文字が小さいので見えないかもしれませんが、白石城を初め片倉氏の御廟、真田幸村の墓などを掲載しております。参考に真田幸村の墓のページを開いてみます。



このように市内蔵本地区にある真田幸村の墓の写真と説明文を掲載しております。

次に目次に戻りまして、この電子博物館には、真田サミット関係の各市町村のホームページへのリンク集を設けております。各市町村のホームページにもアクセスできるようになっております。それではリンクを開いてみます。



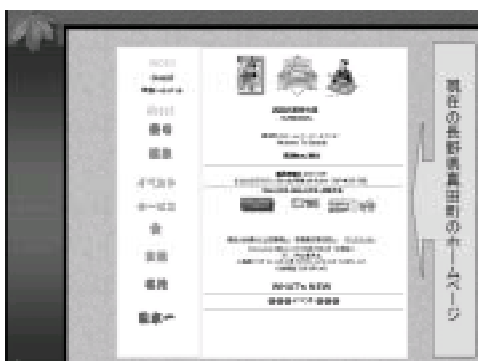
このように、「全国の真田氏ゆかりの地へリンク」のページを設けて、各市町村のホームページにアクセスできるようになっております。

それでは、リンクの例として、今日おいでになっております秋田県岩城町さんをクリックしてみます。

このように岩城町さんのホームページにアクセスできます。そして、岩城町さんが開設しているこのホームページの中には、岩城町内の真田氏ゆかりの史跡など、真田氏関連のページが掲載されております。ちょっと中を開いてみたいと思います。これが、岩城町さんのホームページにある真田氏ゆかりの妙慶寺のページです。



もう一カ所見てみたいと思います。それでは、この真田サミットを提唱されました長野県真田町のホームページを見てみることにしたいと思います。



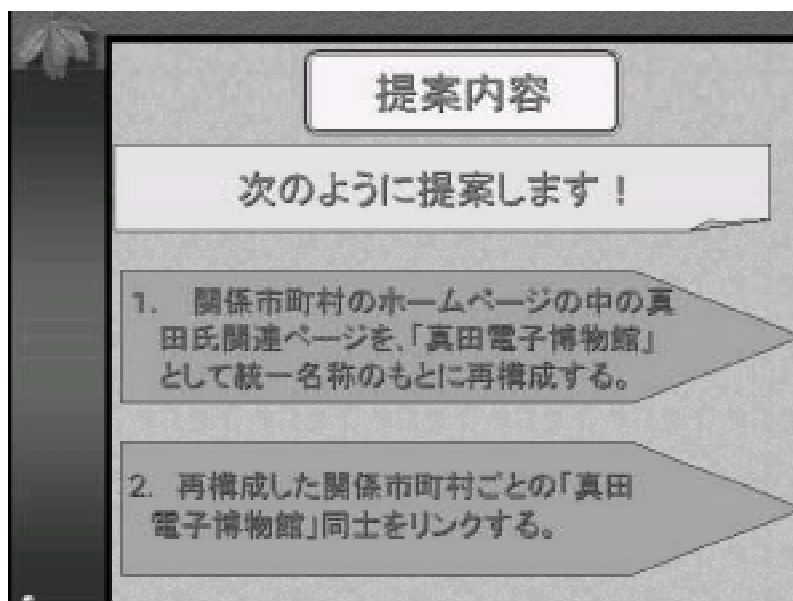
これが真田町さんのホームページでございます。この中にはもちろん真田氏関連のページが掲載されております。ご存じのように、真田町は真田氏発祥の里でありますので、非常に多くの真田氏関連のページが掲載されております。これはほんの一部でございます。

このように本サミットにご参加いただいております各市町村のホームページには、真田氏に関連するページが紹介されております。

以上で内容の説明を終了いたします。

白石市長（川井貞一氏）

以上説明をいたしました。そこでご提案でございますが、本日まで出席の各市町村は全部ホームページをお持ちでございます。そして、そのホームページには必ず真田氏関連のページがあります。しかし、それが構成市町に全部リンクされておるといわけではないということでございます。そして、その町あるいはその市の史跡、あるいはそういう真田氏のことにつきましては、何といたしてもその町の解説が一番詳しいわけであり。そういう意味で、この真田氏関連のページをすべての市町村に「真田電子博物館」という統一した名称をつけ、そして全部アクセスできるようにしてはどうだろうか、このようなご提案であります。



これによりまして、もう一度真田というものを思い起こす。そして、より充実した発信ができると同時に、インターネットを使った情報発信の中で、一つのテーマで各自治体をリンクさせるというのは多分恐らく日本で初めての試みだろうと、このように考えるものであります。そういう意味で、ぜひともこの提案にご賛同くださるようお願いを申し上げます。提案理由の説明とさせていただきます。

進行（我妻建治氏）

ありがとうございました。

ただいま川井市長からご提案のありました「真田電子博物館」の開設、それぞれの市町村が開設しているホームページの中で紹介している真田ゆかりのホームページを再構成して、13の自治体、市町村が連携して「真田電子博物館」という統一名称を使用し、相互



にリンクさせるという形でつくり上げようというご提案でしたが、皆様からのご意見をお伺いしたいというふうに思います。

真田町長（箱山好猷氏）

真田サミットを提唱させていただきました真田町といたしましては、4回目にして誠に素晴らしい提案をちょうだいしたと、こう感じております。このことが実現いたしますと、ますますこの真田サミットが充実し、そして関連市町村の発展につながるのではないかとということで大賛成でございます。（拍手）

沼田市長（西田治司氏）

前回の沼田市開催のサミットでの提案は、子供たちがニュースポーツとして、けがをしないようないろいろなルールをつくってチャンバラごっこをみんなでやってみたらどうかというような、まことに漫画チックな提案に対しまして、また一本取られたという感じがいたしましたが、私は大賛成であります。ただいまの真田電子博物館は大賛成です。ありがとうございました。（拍手）

進行（我妻建治氏）

今、沼田市長からも賛成のご意見でございました。それでは、これを立ち上げるということで決めてよろしゅうございましょうか。（拍手）

それでは、真田電子博物館を立ち上げていくと、このサミットで決定したということにいたしたいと思います。本当にありがとうございました。

今ご提案され、サミットでその施策等についてスタートしていく。ぜひ実現していただきたい。そして、真田氏ゆかりの少なくとも13自治体、13の市町村がこれを契機にますます連携を深めていくという方向で、相互にまた刺激し合いながら将来にわたって継続していただきたいと思います。

それから、これは私自身の余計なことかもしれませんが、一番南の九度山、大阪、それから一番北の岩城、さまざまな地域環境は違うかと思えます。しかしながら、例えば環境問題が非常に大きな問題として現在ございます。自然環境の問題もございまして文化環境、あるいは教育環境というものがございまして。受けとめ方は市町村それぞれにおいて違うかもしれません。あるいは真田ゆかりのまちまちでも、13市町村でもそれなりの温度差があるかもしれません。物によって市町村レベルの違い、あるいはネーションマインドな問題にひっかかってくる。あるいはグローバルとこのごろ言いますけれども、ワールドワイドな問題にひっかかってくる。それぞれ違っても13市町村の中でどういう温度差があって、どういう環境問題について取り扱うかというような、もう少し生臭い話も別な機会にたっぷり首長さんたちの間で考えていくようお願いしたいと思います。

後ろ向きに懐かしいロマン、あるいはまちづくりということはもちろんですけれども、人づくりの根底にあるのはこれからは環境問題、20世紀は技術の時代だというふうに言われたときもありましたけれども、20世紀の最後はITの時代だと一遍に変わって、またこのごろになるとITはもう古いよというので、心の時代だとかまた逆戻りしていく、非常に大きな21世紀の時代は先がとっても見えそうもないような時代でございます。

す。それは、大阪というところ、それから白石では随分物の考え方が違うでしょうけれども、違うなりにこういう問題も扱ってみる、話し合ってみる、そういうサミットがあってもよいのではないかと。サミットの主題の一つにするときがあってもよいのではないだろうか。さまざまな温度差がわかるだけでもいいのではないだろうか、そんなことをこのサミットに私自身勝手ながらお願いしたいと思います。

差し当たりは「真田電子博物館」の開設、そういう方向できょうのサミットは終了という形にさせていただきました。

誠に不行き届きなコーディネーターでございます。たっぴりと時間ばかりかかってしまいました。しかし、おかげさまで何とかこぎつけることができたと思います。ご協力ありがとうございました。(拍手)

司会(わたなべゆりえ)

ありがとうございました。

我妻様並びに全国からご出席いただきました皆様に、もう一度大きな拍手をお願いいたします。

続きまして、本サミットに当たり共同宣言を行います。

なお、この共同宣言は、サミットに先立ち開催された出席者会議において承認をいただいております。

それでは、共同宣言を白石市振興課大野恒男課長より朗読し、本サミットの共同宣言といたします。

白石市振興課長(大野恒男氏)

#### 共同宣言

戦国の乱世をたぐいまれな武勇と智略で生き抜いた真田氏は、武士道を貫き400年以上の時を超えて現代の人々の心にその名を残しています。

この真田氏にゆかりの全国の市町村が、宮城県白石市に集い「新世紀真田サミット」において、次の事項を確認し、ここに高らかに宣言します。

- 1、真田氏の歴史ロマンを後世に継承し、人々の活力とします。
- 1、真田氏の歴史ロマンをまちづくり、人づくりに活かし、心のかよいあう温かいまちを築きます。
- 1、真田氏ゆかりの地域間における信頼関係を築き、相互理解のもと人的、物的交流の促進を図ります。

平成13年11月11日

新世紀『真田サミット』

司会(わたなべゆりえ)

続きまして、次回開催地への引き継ぎ式を行います。

次回開催地であります長野県長野市の久保教育長へ、「開催録」の引き継ぎをお願いいたします。

それでは、川井白石市長、久保教育長、舞台中央にお進みください。

白石市長（川井貞一氏）

第1回から続いております真田サミットの巻物、ぜひともお引き継ぎいただきます。来年はよろしく願いいたします。（拍手）

司会（わたなべゆりえ）

それでは、久保教育長に一言ごあいさつをいただきます。

長野市教育長（途中退席のため、長野市商工部観光課長 塩澤一郎氏）

来年開催をお引き受けいたしました長野市でございます。真田10万石の城下町長野市の松代で開催を予定しております。この白石さんのような立派なサミットになるかどうか不安ではございますけれども、参考にさせていただきまして、これから準備に取りかかろうと思っております。ぜひ来年は長野市へお越しをお待ちしております。よろしく願いいたします。（拍手）

司会（わたなべゆりえ）

ありがとうございました。

以上で新世紀「真田サミット」シンポジウムを終了いたします。